



富田浜の手前にある、長さ約2・5kmの入り江。ここは県内でも有数の漕艇場で、日々、ボートの練習が行われています。ボートとは、人間1人分ほどの幅しかない細長いボートを後ろ向きに漕ぎ、速さを競う競技です。選手の力量がものをいうシングルスカル（1人乗り）、複数の選手が息を合わせて進むダブルスカル（2人乗り）、クォドルプルスカル（4人乗り）などがあります。

このボートを子どもたちに教えているのが、新富漕艇クラブ代表の阿部和義（あべかずよし）さんです。焼けた小麦色の肌と陽気な笑顔が印象的で、御年70ですが、子どもたちに負けないほど元気。指導する時も、直感的に伝わりやすいオノマトペと、全身を使ったジェスチャーを用いるのが阿部さん流です。

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#003 今月の新富人



新富漕艇クラブ 阿部和義さん

かつてはシングルスカルの選手として、国体に出場したこともある阿部さん。昭和54年の宮崎国体以降は監督業を務め、選手時代も含めると30回もの国体に参加しました。また、新富町で宮崎国体をきっかけに町内行事のボート大会「しんとみレガッタ」が開催されるようになると、大人だけでなく子どもへの競技人口も増加。ジュニア向けの「新富漕艇クラブ」が誕生し、監督に阿部さんが就任します。

取材した日も、入部2日目だという女の子がいましたが、阿部さんの指導のあと入り江に出てみると、ぎこちないながらも水面を滑るようにボートを漕いでいました。「教えたことを理解して、進んでいってくれることが嬉しい」と指導者の醍醐味を語ります。

ボートの魅力を尋ねると、「漕ぐと自分の後方へ進むなんて、こんな後ろ向きの競技は他にないよね」と笑った阿部さん。

「背を向けているから、今

1950年生まれ。新富町出身。新富漕艇クラブの代表として、子どもたちにボートの指導をしている。選手時代は、1976年の佐賀大会から1979年の宮崎大会の国民体育大会(国体)に出場した経験を持つ。新富町体育協会会長。本業はキュウリ農家。

まで漕いだ道筋しか見えなくて、進んだ先に何が待ち受けているのかわからない。それって、人生と似ていると思う。未来はわからないけど、自分が歩んできた過去はわかるから、その過去を大切にしたいよね。あと、方向を見失ってフラフラ曲がっていたらゴールでできないでしょ？曲がらずに自分のコースを行くことも大事なんだよ」

子どもたちに指導をしながら、そう話してニヤリと笑います。夢は「教えるから全日本チャンピオンを出すこと」。2026年に宮崎でふたたび開かれる国体も、子どもたちが選手として活躍する舞台となるかもしれません。前に進むエネルギーはまだまだ全開です。

●新富漕艇クラブでは一緒に活動する小中学生を募集しています。興味のある方はこちらまでご連絡ください。
 新富漕艇クラブ ☎090・9409・2290

